

揖斐川とともに生きて

資料提供・お話 松井芳弘
文 窪田弘子



川で使った道具
左から、ヤス・舟の水かき出し・箱めがね・水中で木や石をさぐる道具・魚入れかご

白鳥は揖斐川の堤防下だったので、河原が村中の子供の遊び場でした。池田町の多くの地域は、池田山に入会地などの権利があり、木材だけでなく、薪や下草（田畑の肥料であり、牛馬のえさ）も手に入りましたが、杉野や白鳥は山の代わりに揖斐川を使う権利がありました。

流れてくる木は大事な燃料です。大木が出た時など、堤防から見えていて流木が見えると、すぐ舟を出し、うまく引っかけて下流の岸に引き上げます。さおでは水底に届かないので櫂で、上手にこぎました。

「ねっこつ（根）は長く燃えるし、いばらは油があるでよう燃えるが、やなぎはあかん」と言われていました。そんな薪を束にして、藁ぶき家の屋根裏にたくわえておき、必要な時つるべ（縄の先に自在かぎがついている）で降ろすのです。

また鮎・毛ガニ・ウナギ・小魚など今思えば結構なごちそうが食べきれない程とれました。うちは数軒でやなをやっていました。一度網を振ると鮎が30匹もかかったり、一晚のやなで担がない程とれたりして、大垣の市場へ出していました。はそり（大なべ）いっぱいのお鮎を、母がたまり（しょうゆ）で煮付けてくれたり、毛ガニも、そのおいしかったこと。たまには人に頼まれて鮎を5匹、10匹と漁ってきたりもしました。

川の真ん中に出来た「中州」では、さつま芋を作ったり、草を刈って馬のえさにしたので、しょいかごを背負って川の中を運んだものです。

お風呂の水は川から運んだので、頻繁には湧かせません。うちは6軒で交代に、もやい風呂（共同ぶろ）をし、順番に30人も入った事がありましたし、その捨て水も勿体ないと畑にまいて、今では考えられませんが私の子供の頃の事です。

河原の石も家の土台や石垣用に大切なもので、川底からも上手にさぐって引き上げました。

私は今でも時間があれば河原を歩き、形のいい石、珍しい石を探して川を楽しんでいます。

古い農具も捨てがたく大事にしていますので、資料館が出来たら提供したいです。



使い込んだ農具
左から、あぜぬり・くわ・草かき・やたたき

協力 郷土史の会